

市川中学校地区のまとめ

(市川中・桔梗野小・轟木小・多賀小・多賀台小)

1. 概要

(1) 児童・生徒数(カッコ内は通常学級数)

	6 年前		現在(H22.5.1)		6 年後	
	児童生徒数	通常学級数	児童生徒数	通常学級数	児童生徒数	通常学級数
市川中	422	13	386	12	360	10
桔梗野小	422	13	320	12	267	11
轟木小	95	6	83	6	51	5
多賀小	186	7	145	6	105	6
多賀台小	194	6	163	6	161	6

(2) 部活動

	運動部														文化部														
	陸上	器械体操	水泳	バレーボール	バスケットボール	サッカー	野球	ソフトボール	柔道	剣道	相撲	ソフトテニス	卓球	バドミントン	ハンドボール	新体操	アイスホッケー	スキー	スケート	その他	吹奏楽	合唱	バトン	コンピュータ	科学	美術	家庭	その他	
市川中	○				○	○			○	○		○	○								○						○		
桔梗野小					○	○				◎																		○	器楽
轟木小							○	○																				○	太鼓
多賀小						◎	○	○					○																
多賀台小					◎	○																							

(「○」: 部活動、「●」: 一定の時間以外はスポーツ少年団等の活動として活動「◎」: スポーツ少年団、愛好会等)

(3) 学区外通学

学校名	学区外	主な相手校	主な理由	備考
市川中	流出	北稜中 下長中 第二中	部活動への配慮 教育的配慮	古場蔵は距離的理由により三条中へ学区外通学可能
	流入	下長中 北稜中	教育的配慮 学期途中	
桔梗野小	流出	多賀台小 多賀小	教育的配慮 留守家庭	
	流入	多賀台小 日計ヶ丘小	留守家庭 学期途中	
轟木小	流出	三条小 多賀小	留守家庭 教育的配慮	
	流入	多賀台小 小中野小	留守家庭 転居予定	
多賀小	流出	桔梗野小 多賀台小	留守家庭 学期途中	
	流入	多賀台小 桔梗野小	留守家庭	
多賀台小	流出	桔梗野小 轟木小 多賀小	留守家庭 転居予定	
	流入	桔梗野小 多賀小	学期途中 教育的配慮	

2. 寄せられた意見

※市川中=市中、桔梗野小=桔小、轟木小=轟小、多賀小=多小、多賀台小=台小

区分	意見照会		地域意見交換会
	結果	記述意見(主なもの)	当日意見・会場アンケート(当)
1.通学区域	見直すべき		当 ①小学校区は歩いて通学できるほうが望ましい。
	市中 0/15		
	桔小 0/13		
	轟小 0/15		
	多小 0/15		
台小 0/17			
2.通学路	注意が必要	①歩道のないところが多い。(市川) ②街灯が少ない。(共通) ③市川郵便局前の交差点は交通量も多く危険である。(多小) ④桔梗野小から市川中までは遠距離でありバス通学が多い。(市川)	当 ①雪が多い時期の通学路の確保についてもっと考えていただきたい。
	市中 6/15		
	桔小 4/13		
	轟小 4/15		
	多小 5/15		
台小 3/17			
3.学校規模 過大:大きすぎる や大:やや大きい 適正:適正である や小:やや小さい 過小:小さすぎる	通大 や大 適正 や小 過小	①や小) 全学年1学級でクラス替えがないため競争がない。(轟小・多小) ②や小) 学年2学級が適正である。(多小・台小) ③過小) 1学級あたり20人はほしい(轟小)	当 ①複式学級を経験したがあまりよいものではない。
	市中 15		当 ②学年1学級だと上下関係が固定化され子どもたちにとってつらい部分がある。
	桔小 1 11 1		当 ③小規模校には小さいなりのよさがある。
	轟小 4 9 2		
	多小 6 8 1		
台小 1 8 7			
4.部活動	見直すべき	①担当教師と外部コーチの役割を明確にすべき。(市川) ②部活動の種類が少ない。(小共通) ③「学校ごと」から「地域ごと」でクラブチームとして考えを変えるべきである。(台小)	当 ①団体競技ができないのはかわいそうである。小学校の部活動は地域全体で組むなど中学校単位でやっていただきたい。
	市中 1/15		
	桔小 8/13		
	轟小 3/15		
	多小 6/15		
台小 3/17			
5.適正配置 全般	①生徒数が少ないというだけでの統合はすべきでない。(市川) ②活発な教育活動をするためには適正な規模が必要だが、人数が多すぎてもいけない。(桔小) ③統廃合は大が小を吸収するのではなく新しい学校にするという考え方で進めるべきである。(桔小)		当 ①学校が統合になった場合、バスなど通学の手段をしっかりと考えてほしい。
6.その他	①3年生は受験もあり教員の負担が大きいので少人数のクラスが望ましい。(市川)		当 ①小さい学校だと学校予算が少ないので配分を考えてほしい。
	②まちづくりが先で学校を支える地域という考え方が大切である。(市川)		当 ②地域内の企業の力も活用したほうがよい。

3. 論点の整理

学校	論点	備考
市川中	他 ①4つの小学校から入学してくる。 ②通学区域が広い。	・市内で最も多い4つの小学校から入学してくる。 ・通学区域が広いと、桔梗野など通学距離が長い地区がある。
桔梗野小	意 ①中学校までの距離が遠い。	・地域の他の3小学校に比べ中学校までの距離が遠い(学校間距離は約3.2kmである)。
轟木小	他 ①5年後に複式学級の導入が見込まれる。	・児童数が徐々に減少し、平成27年度には児童数55人となり2年生と3年生で複式学級の導入が見込まれる。
多賀小	他 ①児童数が減少している。	・児童数が徐々に減少し、6年後には現在の3分の2となる。平成27年度には児童数103人となり各学年概ね20人以下となる。
多賀台小	他 ①全学年1学級でクラス替えができない。	・児童数はあまり減少しないが、増える見込みもないため、今後も学年1学級のまま推移する見込みである。

(意:寄せられた意見から導出したもの、他:その他、教育委員会で把握しているもの)